



日本シティズンシップ教育フォーラム

2015 年度 事業報告書

(2015.01.01～2015.12.31)

住所：兵庫県尼崎市次屋 2 丁目 2-20 ハイツアメニティ II-203 号室
電話番号：070-6506-0369 mail：info@jcef.jp web：http://jcef.jp

目次

1. 2015 年度事業のハイライト	2
2. 2015 年度事業実施体制	2
3. 事業報告	
(1) ネットワーキングの場の創出	4
(2) 現場の関係者を応援するメディアの制作	8
(3) 実践を広範に推進する社会環境の創造	10
(4) その他	11
4. 会計報告	別添資料参照

設立趣意書

人々の価値観が多様化した現代社会においては、市民が熟議を重ねながら、一人ひとりの問題意識に立脚した「望ましい未来像」に向けて、地域や社会の変革と創造の過程に参画していくことが重要です。市民参加の領域が今後一層広がっていく中、このような社会デザインの担い手を育てるシティズンシップ教育の社会的関心も高まってきています。既に日本各地では、幅広い世代に対して多様な形態によるシティズンシップ教育の実践と研究、政策形成が展開されていっています。こうした様々な場での取り組みが交流を通じて、現場に根ざした実践知を生成し、社会全体で幅広く活用されていくことが必要となっています。この現状を踏まえて、日本シティズンシップ教育フォーラムは、シティズンシップ教育に関係する人々がネットワーキングを進め、現場の関係者を応援しながら、実践を推進しやすい環境づくりを展開し、シティズンシップ教育の進展を図っていきます。更に、以上の活動を通じて、日本社会が能動的な市民の参加を地域や社会を創造するエネルギーに変えていく民主主義の成熟化に寄与していきます

1. 2015 年度事業のハイライト

- (1) 「シティズンシップ教育を進める上で何を大切にすべきか？」を全体テーマに「第2回シティズンシップ教育ミーティング」を開催。日本全国から117名の方々が参加。
- (2) 「地方自治をどう教えるか？どう学ぶか？」「執筆者にきく！主権者教育の副教材をどう活用するか？」の2つのトピックスで「J-CEF クロストーク」を開催。
- (3) 新たに定例の勉強会「J-CEF スタディ・スタジオ」を神戸でスタート。集中的にホットトピックスについて議論する「ダイアログ・キャンプ」も2回開催。
- (4) 『シティズンシップ教育で創る学校の未来』を公刊。
- (5) 機関誌「J-CEF NEWS」6号から8号を発行。

2. 2015 年度事業実施体制

J-CEF では、総会に付議すべき事項や総会の議決した事項の執行に関する事項等について決議する機関として運営委員会を設置しています。事業の推進にあたっては、総会での議決に基づいて2つの部会を設

置しました。各事業部に事務局スタッフを配置し、事業執行にあっています。

■役員

【運営委員】

- 代表 小玉重夫（東京大学大学院教育学研究科教授）
副代表 水山光春（京都教育大学教育学部教授）
委員 伊藤 章（NPO法人国際ボランティア学生協会理事）
岡田泰孝（お茶の水女子大学附属小学校教諭）
川中大輔（シチズンシップ共育企画代表）
木村 充（東京大学大学総合教育センター特任研究員）
黒崎洋介（神奈川県立湘南台高等学校教諭）
杉浦真理（立命館宇治高等学校教諭）
中村陽一（立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授）
林 大介（東洋大学社会学部助教、模擬選挙推進ネットワーク事務局長）
古田雄一（湘南まちいくプロジェクト、筑波大学大学院博士後期課程）
毛受芳高（一般社団法人アスバシ教育基金代表理事）

【監事】

- 齊藤仁一郎（東北大学大学院教育学研究科）
長沼 豊（学習院大学文学部教育学科教授）

■事務局

- 事務局長/会計責任者 川中大輔
事務局スタッフ 神野有希、林 寛人、古田雄一、安井悠一郎、湯浅雄偉（五十音順）

■運営委員会開催記録

	日程	場所	議題
第7回	2015年1月31日 19:00～21:00	東洋大学/京都教育大学	2014年度決算および事業報告、2015年度予算および事業計画策定、会員資格失効の取り決めについて、規約改正案について
第8回	2015年8月4日 19:00～21:30	東京大学/京都教育大学	各部会の進捗報告及び意見交換（主にクロストークの企画について）、会員サイト設置の継続可否について、資金調達タスクチーム設置について
第9回	2015年10月21日 19:00～20:30	東京大学/京都教育大学	各部会の進捗報告及び意見交換（主にシティズンシップ教育ミーティングの企画について）、後援名義申請承認

※いずれの会議も西日本会場・東日本会場をオンラインでつないで実施しました。

3. 事業報告

(1) ネットワーキングの場の創出

■「第2回シティズンシップ教育ミーティング」を開催

J-CEFでは、シティズンシップ教育に携わる様々な方々の交流や意見交換、また広くシティズンシップ教育に関心のある方々との結びつきの機会を作ることを目的として、本年3月に「第1回シティズンシップ教育ミーティング」を開催しました。

【開催概要】

- 日時：2015年3月21日(土)13時～3月22日(日)17時
- 場所：立教大学池袋キャンパス 太刀川記念館・12号館
- 参加者数：122名(会員21名、非会員78名、ゲスト・コーディネーター18名、ボランティア5名)
- 共催：立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科・社会デザイン研究所
- プログラムおよびゲスト・コーディネーター(所属は当時)

▼全体会「シティズンシップ教育を進める上で何を大切にすべきか？」

- ・キーノートスピーチ
小玉重夫氏(東京大学大学院教育学研究科教授)
長沼豊氏(学習院大学文学部教育学科教授)
- ・コーディネーター
富士原紀絵氏(お茶の水女子大学文教育学部准教授)
古田雄一氏(筑波大学大学院博士後期課程)



▲「シティズンシップ教育ミーティング」

▼自由発表セッション

〈研究発表〉

- ・細川英雄氏(早稲田大学名誉教授)「シチズンシップのためのことばの教育とは何か」
- ・堀本麻由子氏(東海大学チャレンジセンター専任講師)「高等教育におけるシティズンシップ教育に関する研究(その1)」
- ・野崎志帆氏(甲南女子大学准教授)「大学生の「よい市民」像～『若者の共生意識調査』の結果から」
- ・コーディネーター
笹井宏益氏(国立教育政策研究所生涯学習政策研究部部長)
小玉重夫氏(東京大学大学院教育学研究科教授)
水山光春氏(京都教育大学教育学部教授)

〈実践発表〉

- ・橋本涉氏(東京大学附属中等教育学校教諭)「日本国憲法と平和主義をテーマにした授業」
- ・岡本航輔氏(兵庫県立兵庫高等学校未来創造コース)「高校生の社会参画」
- ・綱木大智氏(兵庫県立兵庫高等学校未来創造コース)「主体的活動から学ぶ協調性」
- ・コーディネーター
岡田泰孝氏(お茶の水女子大学附属小学校教諭)

杉浦真理氏（立命館宇治中学・高等学校教諭）

林 大介氏（東洋大学社会学部助教）

▼分科会

〈第一セッション〉「良い授業を「ともに」作るには？ー学校と外部の連携によるシティズンシップ教育実践ー」

・ゲスト：荒城大輔氏（川崎市立長沢小学校教諭）

平川良一氏（川崎市麻生区社会福祉協議会）

親泊寛昌氏（都立千早高等学校教諭）

大久保正弘氏（シティズンシップ教育推進ネット代表）

・コーディネーター：長沼 豊氏（学習院大学文学部教育学科教授）

〈第二セッション〉「シティズンシップ教育の効果をどう測るのかー評価の実際と留意点ー」

・ゲスト：木村 充氏（東京大学大学院学際情報学府博士課程）、

酒井淳平氏（立命館宇治高等学校教諭）

民谷洋二氏（尼崎市教育委員会指導主事）

・コーディネーター：河井 亨氏（立命館大学教育開発推進機構講師）

川中大輔氏（シティズンシップ共育企画代表）

〈第三セッション〉「10代の参加が社会（よのなか）を動かす」

・ゲスト：森野宇宙氏（Teen's Rights Movement 高校生代表、Act18 共同発起人、高校3年生）

鈴木杏佳氏（YEC「若者エンパワメント委員会」メンバー、高校2年生）

小松俊氏（b-lab 中学生スタッフ、中学3年生）

・コーディネーター：原田謙介氏（NPO 法人 YouthCreate 代表）、

林 大介氏（東洋大学社会学部助教・模擬選挙推進ネットワーク事務局長）

〈第四セッション〉「まちかどの公共空間を考える」

・ゲスト：桑谷哲男氏（座・高円寺＜杉並区立杉並芸術会館＞館長）

中野未知子氏（東京都美術館アート・コミュニケータ）

西田 司氏（建築家（株）オンデザインパートナーズ代表取締役）

・コーディネーター：中村陽一氏（立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科教授）

▼クロージング

■J-CEF クロストーク vol.4 「地方自治をどう教えるか？どう学ぶか？」を開催

21 世紀社会におけるコミュニティマネジメントについて、行政を中心とする統治から多様な主体による協治への転換が求められて、既に久しくなっています。こうした趨勢にあって、中学「社会科」・高等学校「公民科」における地方自治教育でも当然にリニューアルが求められることとなり、既に各地で新たな実践が展開され始めています。そこで、本企画では統一地方選を前に、改めて「地方自治」の教育について、実践からどのような方向へと深化させていくべきかを明らかとすることをめざしました。

【開催概要】

○日時：2015年3月1日（土）13時30分～17時30分

○場所：京都市中京青少年活動センター中会議室

○参加者数：10名（定員20名）

○ゲストと話題提供の視点

・富野暉一郎氏（龍谷大学政策学部教授、元逗子市長）

「地方自治体の研究から」

・杉浦真理氏（立命館宇治中学校・高等学校教諭）

「模擬投票や地域参加活動を取り入れた社会科教育の現場実践から」

・原田謙介氏（NPO法人YouthCreate代表）

「若者と政治家との対話機会や政治教育プログラムを展開するNPOの実践から」

○共催：公益財団法人京都市ユースサービス協会

■J-CEF クロストーク vol.5 「執筆メンバーにきく！主権者教育の副教材をどう活用するか？」を開催

18歳選挙権が実現し、主権者教育の必要性が強く認識され、今般、文部科学省・総務省は「政治や選挙等に関する高校生向け副教材」を発行しました。公民科のみならず幅広い教員に関係するものとなっていますが、主権者教育への理解を形成し、副教材の活用策を学ぶ場は十分に整えられているとは言えません。このような中、政治的中立性を巡る不安等が先立ち、消極的な展開にもなりかねない懸念の表明が見受けられます。そこで、本企画では、副教材の制作に携わった会員の協力を得て、副教材を使いこなす実践例を共有した上で、学校内外での発展的取組へいかにつなげていくべきかを検討し、学校教育における主権者教育の推進の後押しを図ることを目的としました。

【開催概要】

〈東日本会場〉

○日時：2015年12月6日（日）11時～17時

○場所：東洋大学白山キャンパス 6号館 2階 6205教室

○参加者数：12名+報道5社（定員20名）

○ゲスト：黒崎洋介さん（神奈川県立湘南台高等学校教諭）

原田謙介さん（NPO法人YouthCreate代表）

林 大介さん（東洋大学助教、

模擬選挙推進ネットワーク事務局長）



▲「J-CEF クロストーク」

○内容：セッション1「主権者教育や副教材活用の悩みどころは？」

セッション2「執筆者が答える！副教材の使い方は？」

セッション3「どのように現場で実践するか？」

■ダイアログ・キャンプ vol.1 「学校での主権者教育を巡る現場での不安や懸念、払拭するには？」を開催

- 日時：2015年8月11日（火）10時～17時30分
- 場所：大阪市立青少年センター（KOKO PLAZA）
- 参加者数：15名+報道1社（定員20名）
- 内容：セッション1「改めて、主権者教育とは？」
セッション2「現場の不安や懸念、たなおろし」
セッション3「払拭する手立てを考える」
- ファシリテーター：
川中大輔氏（シチズンシップ共育企画代表）



▲「J-CEF ダイアログ・キャンプ」

■ダイアログ・キャンプ vol.2 「中高生のプロジェクト型学習の支援、どのように進めていけば良いのか？」を開催

- 日時：2015年9月22日（火）13時30分～9月23日（水）15時
- 場所：足柄ふれあいの村（神奈川県南足柄市広町1507）
- 参加者数：14名（定員20名）
- 内容：セッション1「参加者と、その活動を知る」
セッション2「テーマ別小グループセッション」
セッション3「学びを自分たちの活動にどう持ち帰るか？」
- 企画運営：湘南まちいくプロジェクト「まちつくクラブ」
YEC「もう1つの放課後探しプロジェクト」
シチズンシップ共育企画「ユースACTプログラム」

■J-CEF スタディ・スタジオの開催

〈KOBE スタジオ〉

- ・vol.1「キックオフミーティング」実施（参加者：14名）
- ・vol.2「普天間基地問題を巡る大学生向けスタディーツアーのプログラムデザイン」（参加者11名）
話題提供者：大福聡平氏（NPO 法人しゃらく）
- ・vol.3「なりわいカフェ（オルタナティブシューカツ）の意義と可能性」（参加者7名）
話題提供者：森 恭子氏
（神戸大学学生ボランティア支援室）
- ・vol.4「政治と政策-市民が政策立案活動を学ぶ」（参加者10名）
話題提供者：森田 義氏（公認会計士）
- ・vol.5「シニア層の地域参加のキックオフとなる学びのデザイン」（参加者6名）
話題提供者：飛田敦子氏（認定NPO 法人CS 神戸）



▲「J-CEF スタディ・スタジオ」(KOBE)

・vol.6「教室から出たシティズンシップ実践とその評価」(参加者8名)

話題提供者: 窪田勉氏(兵庫県立兵庫高校)

(2015年7月より毎月第一水曜日19時~21時、市民活動センター神戸会議室にて開催)

ネットワーク部会会議開催

座長 中村陽一

委員 林大介、村上千里、川中大輔、古田雄一

日程	場所	議題
第1回 2015年7月10日 13:00~15:00、16:30~18:00	立教大学	「第3回シティズンシップ教育ミーティング」のプログラム構成およびコンセプトの検討、開催概要の決定
第2回 2015年8月5日 10:00~12:30	立教大学	「第3回シティズンシップ教育ミーティング」のプログラム構成および全体会テーマの決定・分科会テーマの検討
第3回 2015年9月10日 18:00~20:00	立教大学	「第3回シティズンシップ教育ミーティング」のプログラム構成および全体会ゲスト・分科会テーマの検討
第4回 2015年9月28日 17:30~18:45	立教大学	「第3回シティズンシップ教育ミーティング」の全体会・分科会等の詳細の検討
第5回 2015年10月26日 11:00~13:30	立教大学	「第3回シティズンシップ教育ミーティング」の全体会・分科会等の詳細の検討
第6回 2015年11月9日 10:00~12:00	新宿	「第3回シティズンシップ教育ミーティング」の全体会・分科会等の詳細の検討

(2) 現場の関係者を応援するメディアの制作

■「J-CEF NEWS」vol.6-vol.8を発行

シティズンシップ教育の好事例を発掘・紹介し、シティズンシップ教育を深く掘り下げる記事を中心とする会報誌「J-CEF NEWS」を発行しました。また、J-CEF会員に向けては無料配布を行いました。

【第6号・概要】

○判型・ページ数: A4版12ページ

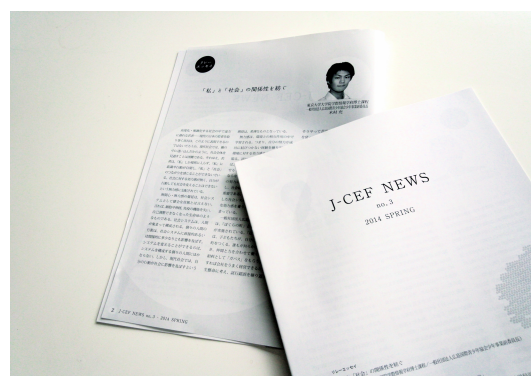
○発行部数: 300部

○掲載記事

・リレーエッセイ Lさんへ ~阪神・淡路大震災から20年の年に

／実吉威さん(認定NPO法人市民活動センター神戸/公益財団法人ひょうごコミュニティ財団)

・実践事例紹介 「市政に関わる手応えを感じ、育つ取り



▲会報誌「J-CEF NEWS」

組み」

／芝原浩美さん(特定非営利活動法人ユースビジョン事務局長)

- ・書評／湯浅雄偉さん (NPO 法人コミュニティワーク研究実践センター月形事業所職員)

『支援のフィールドワーク-開発と福祉の現場から-』小國和子、亀井伸孝、飯嶋秀治 編著

『自閉症連続体の時代』立岩真也 著

- ・特集「シティズンシップ教育を進める上で何を大切にすべきか？」

／村上千里 (認定 NPO 法人 持続可能な開発のための教育の 10 年推進会議理事・事務局長)

／笹井宏益 (国立教育政策研究所生涯学習政策研究部部長)

【第 7 号・概要】

○判型・ページ数：A4 版 16 ページ

○発行部数：300 部

○掲載記事

- ・リレーエッセイ 「私」と「社会」の関係性を紡ぐ

／土肥潤也さん (NPO 法人 Rights 理事／YEC(若者エンパワメント委員会))

- ・実践事例紹介「模擬請願を通して、地域の願いを届けるトレーニング」

／杉浦真理さん (立命館宇治高校教諭)

- ・書評／村松灯さん (東京大学大学院教育学研究科博士課程／日本学術振興会特別研究員 DC)

『教育システムと社会 -その理論的検討-』広田照幸・宮寺晃夫 編

『責任と判断』ハンナ・アレント 著 ジェローム・コーン 編 中山元 訳

- ・特集「シティズンシップ教育を進める上で何を大切にすべきか？」

／市川亨子さん (明治学院大学ボランティアセンターコーディネーター)

／西野偉彦さん (一般社団法人生徒会活動支援協会代表理事)

【第 8 号・概要】

○判型・ページ数：A4 版 12 ページ

○発行部数：300 部

○掲載記事

- ・リレーエッセイ 18 歳選挙権実現。次の一手をどうするか

／森野宇宙さん (中央大学 1 年生)

- ・実践事例紹介「若者が社会への影響力を高める実践 -スウェーデンの高校の学生自治会の取り組み-」

／両角達平さん(ストックホルム大学国際比較教育学修士課程)

- ・書評／辻智子さん (北海道大学教育学研究院教育社会発展論分野准教授)

『「育休世代」のジレンマ -女性活用はなぜ失敗するのか?-』中野円佳 著

『水俣から福嶋へ -公害の経験を共有する-』山田真 著

- ・特集「シティズンシップ教育を進める上で何を大切にすべきか？」

／上田秀磨さん (早稲田大学教育学部 4 年生)

■Web サイトを更新継続

本フォーラムの社会発信及び情報公開のためにウェブサイト、Facebook ページ（催事案内・開催報告）を更新継続しています。会員同士のネットワーキングやノウハウ共有のプラットフォームとして活用できるよう、会員のみがログインできる「会員専用ページ」も公開しています。会員専用ページについては、その運用実態に鑑み、今年度で閉鎖を検討しています。

○URL : <http://jcef.jp>

(3) 実践を広範に推進する社会環境の創造

■教員を対象としたシティズンシップ教育テキストの刊行

シティズンシップ教育に関心を寄せていたり、または既に実践に取り組んでいたりする学校教員を主な対象として、学校における多様な形でのシティズンシップ教育の事例理解と高度化推進の一助となるテキストとして以下の書籍を公刊いたしました。

日本シティズンシップ教育フォーラム編（唐木清志・岡田泰孝・杉浦真理・川中大輔監修）

『シティズンシップ教育で創る学校の未来』東洋館出版社

（2015年3月21日、A5版・200ページ、定価本体価格2,600円）

■「実習生制度」の検討

シティズンシップ教育を担う人材の発掘・育成を目指す「実習生制度（仮称）」について、2016年度からの運用に向けて検討を今年度進めました。まずは学生・院生等の研究調査を受け入れたり、実践の場で修行できる機会を提供できたりする「会員リスト」をまとめ、会内(外)に共有する案から実現を目指し、サマースクール（夏期集中講座）の開催へと展開していくこととすることを決した。

■「シティズンシップ教育プログラム評価研究会」の設置

会内外より16名の方の研究会参加希望者があり、第1回研究会開催を8月4日に開催し、目標の共有や今後の進め方について協議した。今年度はコーディネーターを中心とした作業部会を行い、2016年度夏に集中的に討議するセッションを設け、ハンドブック制作をめざす。

■「『道徳』『公共』教科化に関する研究会（仮称）」の設置検討

新科目「公共」の設置検討を行っている中央教育審議会教育課程部会教育課程特別部会委員を囲んでの勉強会を2016年度に運営委員会にて行い、その後、展開方向を明らかとした上で、会内外メンバーを募って設置に向けて取り組むことを決した。

交流育成部会会議開催

座長 水山光春

委員 杉浦真理、川中大輔

	日程	場所	議題
第1回	2015年9月17日 18:00~20:00	キャンパス プラザ京都	「実習生制度」の検討、「J-CEF NEWS」の編集会議・執筆者検討

※本部会は電子メールによる意見交換を通じて、編集会議の一部に代えた。

(4) その他

■ 「第10回マニフェスト大賞」「最優秀シティズンシップ推進賞」受賞

マニフェスト大賞実行委員会主催、早稲田大学マニフェスト研究所・毎日新聞社共催による「マニフェスト大賞」に今回より新設された「シティズンシップ推進賞」に申請し、「最優秀賞」を受賞いたしました。授賞式は11月6日(金)、六本木アカデミーヒルズにて執り行われ、中村陽一運営委員が出席しました。

4. 会計報告

別添資料参照

以上